

大阪府住宅まちづくり審議会 第4回政策検討部会 議事録 概要

日 時：令和2年7月29日（水）9時30分～10時45分

場 所：ウェブ会議

議 事： 1.「大阪府における今後の住宅まちづくり政策のあり方答申中間とりまとめ(素案)」
について
2. 今後の進め方

【議事】

1.「大阪府における今後の住宅まちづくり政策のあり方答申中間とりまとめ(素案)」について

(委 員)

- ・ P6 に新型コロナウイルスの記載があり、これに対して P12 に危機事象への対応というのがあるが、その対策として P16 に民間賃貸住宅で「需要の急速な変動等への対応」とあるものの、危機対応のところに明確に書かれていない。P17 の公的賃貸住宅では「危機事象による急速な需要の変動に対しては有効活用する」と書いてあるが、今回は公的賃貸住宅では十分に対応できていないということがあったので、民間賃貸住宅で対応できるようにするという記述がないと、問題意識と解決策が対応していない。
- ・ P17 の公的賃貸住宅の2段落目に主語がなく、何を減らすのかわからないので修正を。

(部会長)

- ・ 民間賃貸住宅と公営住宅との関係について、できるだけ説明するということになると思うが、供給主体が変わればできないことができるようになるわけでもないので、もう少し丁寧に原因と結果を検討しなければならないと思う。
- ・ 今のご指摘は筋の通った文章になっていないということなので、最低限直して、今後、審議会と部会の議論を通じて深めることになると思う。

(委 員)

- ・ P3 の2の政策展開の方向性が長い1文で構成されており分かりにくい。「活力」と「安全・安心」という指摘をした上で、一度切って、これらが相互に影響し合うという形で続けるのが良いのではないか。

(部会長)

- ・ 単身世帯とあるが統計用語は単独世帯。また、P18 に ICT 技術とあるがテクノロジーが重なる。住生活や住宅ストックの管理におけるデジタル化の観点とすれば、単なる技術の適応だけでなく、それに伴う社会の変化も含まれる気がするが、少なくとも情報通信技術の活用か、ICT の活用とするほうが良い。

(委 員)

- ・ P17 の府営住宅の基礎自治体への移管について、移管すると立地がより限定され入居できるエリアが減少すると思う。例えばドメスティックバイオレンスのケースでは元の市町に住みにくいということがあるので、どう流動性を確保するのかや、立地の限定を克服するかという視点が必要になるのではないか。

- ・P15 の各住宅の役割を見ても、立地が限定される課題が多いので、どう解決していくかという視点が検討課題になると思う。
- ・P17 で入居者の立地が限定されないような工夫に配慮しながら、P15 では公営住宅でも居住支援と連携ということが重要なので、そのような文言が公営住宅の役割の方向性にあれば良いのでは。

(部会長)

- ・公営住宅と民間賃貸住宅のセーフティネット化の相互関係をどう考えるかという複雑な問題を背景としたご指摘で、どちらも単純に代替できるわけではないという話だと思う。
- ・セーフティネット住宅化という手法と、現在ある公営住宅制度とどちらも不十分なところがあり、それぞれ改善の余地があり、改善の仕方によっては、境界が動くことがあり得るので、その両面の検討をしなければならないということを最後かどこかに残すように。

(委員)

- ・P17 の最後の段落について、基礎自治体へ移管するとなると、自治体間での調整や、事業者間の連携、移管したものをどう運営していくかということをしっかり書いておく必要があると思う。
- ・移管先だけで完結するような運営をされると、地域的なショックが起こった時に対応できないということが出てくるので、それを補完するような調整メカニズムも入れるということをもう少しわかりやすく書いたほうが良いのではないか。
- ・広域的な調整メカニズムもどこかで担保するというを明確に書いておかないと、移管して終わりという形になる気がする。

(部会長)

- ・「広域的な調整を担保しながら」という言葉を最低限付け加える。具体的な方法については、また継続的に議論するというにしたい。

(委員)

- ・P18 の 2 行目に「今後の施策の方向性を検討する、その後、重点議論として新型コロナウイルス感染症」とあるため、3 行目の「住まいにおける換気など衛生面の観点」というのはコロナウイルスの関係で書かれていると思うが、省エネ性能や住宅性能に関して目標を掲げていたと思うので、換気も含めた住宅性能という言葉を入れたほうが良いと思う。

(部会長)

- ・コロナの感染拡大のなかで、厳密にいうと自然換気ということをもう一度再評価するという議論はあまりなかった。人を集める学校は特にそうだが、急に換気を丁寧に見ないといけないということがあり、住宅もそうなってきたと思う。住宅性能の捉え方の見直しが必要というご指摘だと思う。

(委員)

- ・P2 から P4 について、第 3 章ではコロナの問題など具体的な話に展開しているが、文章的にも不自然なところも散見されるので、全体を通してもう一回精査されるのが良いと思う。
- ・P5 で「グランドデザイン・大阪」や「大阪関西万博」などのキーワードがでていたので、P2 の 2 段落目にも触れたほうが文脈としては理解しやすいと思う。
- ・また、コロナで直面している問題は SDGs にどう向き合うのかということと近接したテーマ

だと思うので、社会の課題として問題提起されており、目標で触れても良いと感じている。

- ・コロナの問題で、全国的にも関西圏の相対的な位置が注目されているので、大きな社会構造全体の変化、見直しのような動きがでてくるであろうというようなことも大阪府レベルで触れても良いのではないかと。
- ・P3の基本目標の住まいとまちの説明は、後半の議論の質に合うように、もう少しブラッシュアップできないかと思う。例えば、まちというのは経済活動が健全に展開されていくために重要であるとか、人が集まって住むときのモラルが重要だとか、今後はさらにこうだというような表現があっても良いのではないかと。
- ・P4、P5の視点で、例えば③にレジリエンスとかサステイナビリティといったキーワードを入れてはどうか。また、大阪独特の居住支援の広がりなどは、長い居住文化の歴史や社会事業を全国のトップランナーで開拓した近代史があってこそではと思うので、一般論にしすぎず、大阪の特性みたいなものをもう少し匂わせてもいいのでは。
- ・②では自治の形が変わっていく中で、どういうふうに住居を支えていくことが重要かということも考え方として出すことが必要では。①も居住地が限定される階層の人たちであるエッセンシャルワーカーの居住の質をいかに確保していくかということも重要な問題で、10年後にはもっと重要になるであろうということ強調してもいいのではないかと思う。

(部会長)

- ・今の指摘は本質的な指摘で、簡単に修正できる感じがしないが、新型コロナウイルスの感染拡大のなかで、住まい・まちづくりの本質的な問題について、専門家でない人も含め多くの人たちが強い関心を持って、今のような議論が深まってきていると思う。
- ・特に前半部分の修正について、本質的な議論を踏まえて直すことになるため、中間報告で完全に修正し合意を得ることは多分無理だと思うので、そういう議論を深めるということ審議会に報告することをおこなってほしいと思う。
- ・前の部分は膨らませばいいところは膨らませて、P18の今後に向けての内容だと思うので、引き続いて検討するということがほしい。

(委員)

- ・P18の新型コロナウイルス感染症に関しては、衛生や換気と狭義の意味での感染症対策になりがちだが、一番大きな変化は、人の生活のあり方のような価値観が大きく変わったということではないか。今後、生活や価値観がどのように変化したか、それに対してどのように対応すればいいかということ、今後の議論の中に加えていくことが大切だと思う。健康を生活のあり方、暮らし方の変化の中に上手く捉えて今後の議論に加えていただければと思う。

(部会長)

- ・公衆衛生的な観点をもうちよっと考えないといけないという確認と、そういう範囲にとどまらずにこの社会の大きな変化をどう見るかということをもっと深く考えなければいけないし、住宅やまちづくりの領域における変化について、もう少しきちんとした議論をして最終的な答申としてまとめるべきだという指摘だと思うので、審議会の委員の皆さんにも呼び掛け、できるだけ多くの意見を出していただくという風に中間報告としては言わざるを得ないと思う。
- ・部会後半の議論として、住まい・まちづくりの領域における新型コロナウイルス感染症の拡

大に伴う今後の政策のあり方について、より深い議論をしていただくようお願いをしたい。

- ・特に経済界の議論をみると、東京一極集中の見直しが大きく起こるのではないかとということ
を前提にして、関西圏の特に大阪の再評価とか、大阪でこれまでやってきた蓄積のポジティブな側面が浮き上がってくるという指摘もされているが、楽観的でもっと駄目になるというニュアンスもある。大阪府全体として今後どういうふうに考えていくかという庁内の議論もあると思うので、そういうことも改めてご紹介いただければと思う。
- ・今回は中間的な報告ということで、一旦できているものを再検討し、今後はどうつなぐかという議論の整理をするということなので、その範囲内という側面もあるが、新型コロナウイルスの感染拡大はそれをはるかに超える大きなインパクトだと思う。特に後半の議論としては、皆様からもう一度それぞれのご意見を拝聴し、それを取り込んで最終的な答申をまとめるという報告を審議会へしておきたいと思う。
- ・次回の審議会にどうだすかについては、議事録はまとめて、事務局と私でできる限りの調整をし、現状を伝えるという形にならざるを得ない。
- ・どういう意見をいただいたということ伝えることと、今できる最低限の修正をして部会の報告とし、審議会でもいろんな意見をいただくと思うので、審議会の意見をベースに特にコロナの問題と住まい・まちづくり政策のあり方については、後半の議論の中でより深い議論をして、それを最終的な方針の中に盛り込むという方向性について審議会の委員の理解をいただくという形で進めてはどうかと思う。

2. 今後の進め方

(部会長)

- ・大阪府の中で、住宅やまちづくりの部門に関わらず、新型コロナウイルスへの対応の議論が進められていると思うので、府として出されるメッセージというものの予定があれば、それも一緒に教えていただけると議論がしやすくなると思うのでよろしくお願いしたい。

以上